

# ペットとの面会について



小児科 講師 金井 理恵

昨今ペット大国と言われるほどペットの数は増加しており、かけがえのない家族の一員として大切に扱っている家庭も多く見られます。ペットのみならず動物に触れることで精神的安定が得られることや病気療養への意欲の向上をもたらすことが知られています。

小児病院では病院に常駐するファシリティドッグの導入や、緩和ケア病棟・ホスピスではペット面会を許可しているところもありますが、総合病院、特に急性期病院では様々な理由から許可されていないところはありません。

長期入院患者さん、難治や末期などで退院、外泊の見込みが立たない患者さんの中には家族の一員であるペットにひとめでも会いたい、ペットのことが心残り、気がかりで落ち着かない方がいらっしゃいます。

現在、当院では衛生面、アレルギー、騒音などの問題を解決し、一部の病棟でペット面会ができるか検討しています。

病院内の各部署が協力し、患者さんのご希望に添えるよう、また他の患者さんに迷惑を掛け無いように規約を整備し、実現出来るよう努力していきます。



ファシリティドッグと子ども 写真提供: 認定特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

4月15日～5月14日

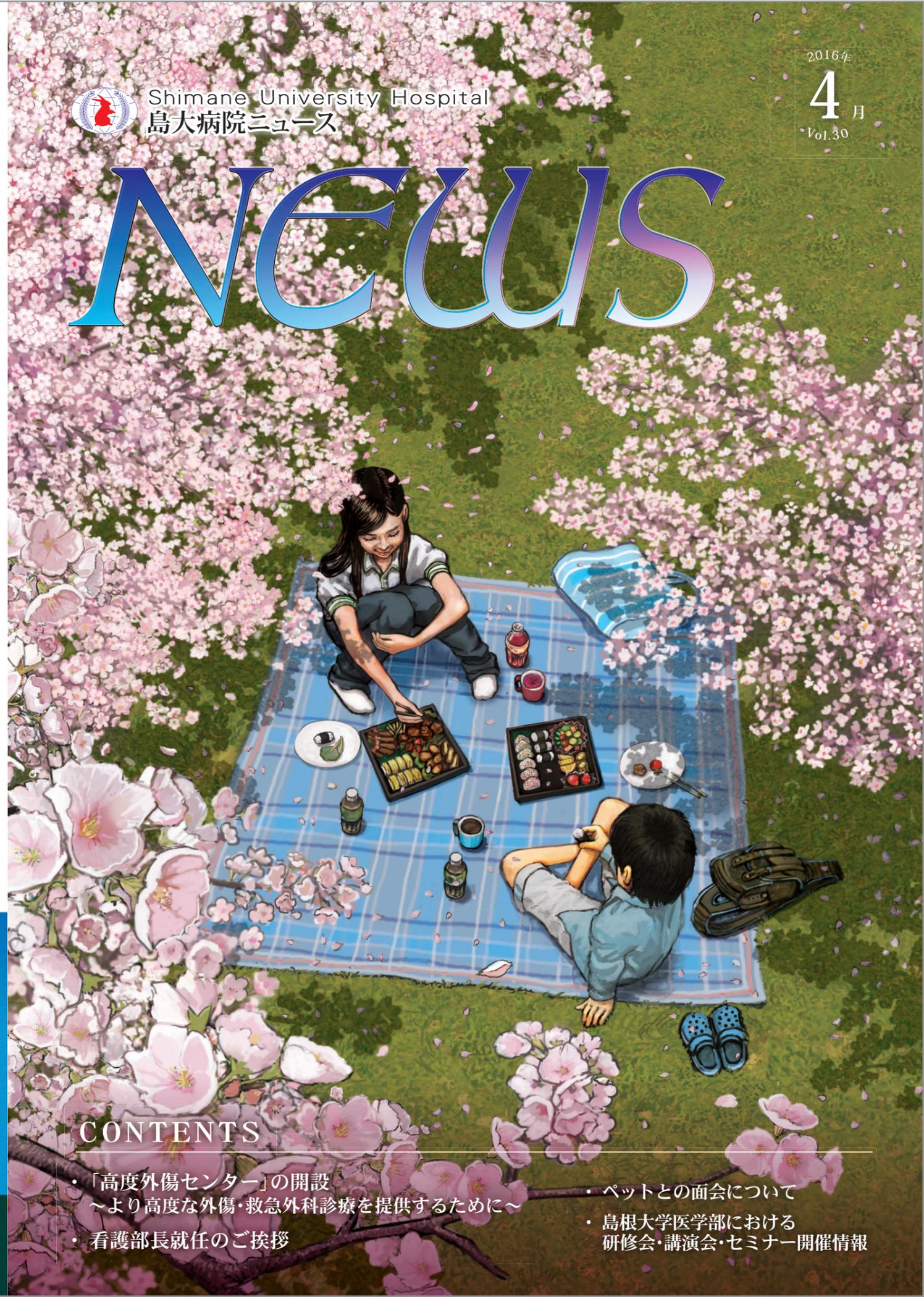
対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者
4/23(土)	13:30～15:00	島根大学公開講座 健康寿命の秘訣を探る-地域健康調査でわかったこと 第1回「生活習慣病の原因について考える」	臨床講義棟 1階 小講義室	一般

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



# NEWS



## CONTENTS

- ・「高度外傷センター」の開設  
～より高度な外傷・救急外科診療を提供するために～
- ・ペットとの面会について
- ・看護部長就任のご挨拶
- ・島根大学医学部における  
研修会・講演会・セミナー開催情報

# 「高度外傷センター」の開設 ～より高度な外傷・救急外科診療を提供するために～

Acute Care Surgery 講座 教授 わたなべ ひろあき  
高度外傷センター センター長 渡部 広明

当院では本年1月に本邦初となる「Acute Care Surgery 講座」を新設しました。この Acute Care Surgery という領域は、2005年に米国外傷外科学会により「重症体幹部外傷」、「救急外科」、「外科的集中治療」の3つを柱とした外科の一領域として誕生し(図1)、日本においても日本 Acute Care Surgery 学会が発足するなど、今まさに日本において発展を続けています。本講座の設置に伴い、当院では重症外傷診療の高度化をはかるため、この4月に「高度外傷センター」を開設いたしました。

高度外傷センターでは、交通外傷、労災などの高エネルギー事故により発生した重症外傷患者さんの初期診療とその後の根治的治療を主な役割とし、重篤な外傷患者さんを広く受け入れることのできる体制を整備しています。特に胸腹部手術や血管内治療適応例に対して、迅速に生命を確保するための治療を開始できる体制として、初療室(救急室)での蘇生的手術を可能とした体制を整備しております。急性期・外傷外科を専門とする医師を常置し、蘇生的開胸術であれば来院直後に手術が可能となります。また、来年春には日本の大学病院で初となる「ハイブリッド初療室(ハイブリッドER)」を配備した高度外傷センター棟も建設され、その機能は著しく向上いたします。ハイブリッドERというのは、救急診療台でありながら、そこで全身CT、緊急手術、緊急血管造影を同時進行できる診療ユニットです。このハイブリッドERの導入により、より迅速に外傷手術を開始できる体制となります。

また、高度外傷センターでは、Acute Care Surgery センターとしての機能も包括しておりますので、急性腹症などの救急外科手術にも24時間体制で対応いたします。

当センターでは、広域からの患者さんの受け入れを積極的に行っていきたいと考えております。重症外傷の管理・治療、急性腹症の手術および管理に関して重症度を問いませんのでお気軽に下記の高度外傷センターホットラインまでご連絡いただきたいと思います。皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。



Acute Care Surgeryの診療領域

高度外傷センター  
ホットライン

TEL: 0853-20-2762

地域に信頼される  
質の高い看護を提供します。

新任

看護部 看護部長  
かんだ まりこ  
神田 眞理子

## 看護部長就任のご挨拶

このたび、4月1日付で看護部長に就任致しました神田です。よろしくお願い致します。

前任の秦美恵子看護部長は7年の間、副病院長兼看護部長として当院のために尽力されました。そのあとを引き受けることになり、皆様のご指導を頂き精進していきたいと思っております。

超高齢化社会に向けた2025年問題に対して、医療提供体制の見直しが進められています。平成26年に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が公布され、「時々入院、ほぼ在宅」の医療に向けた改革が進み、病床の機能分化・連携、在宅医療の充実、医療従事者の確保に対する事業が行われています。今回の診療報酬改定は、医療機関の機能分化を促進し地域包括ケアシステムを構築していくことを目指したものとなっています。

特定機能病院である当院は高度急性期医療の中心を担い、大学病院としての社会的責任を果たすため『地域医療と先進医療が調和する大学病院』の理念の下、患者さんの視点に立った医療の提供、地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開等の目標が挙げられています。

当看護部としては『地域に信頼される質の高い看護の提供』をあるべき姿とし、急性期医療・高度先進医療・周産期医療・がん医療の充実を図り、地域の中核病院として地域住民の方の安心な医療の提供と、各職員の年代・生活、キャリア形成に合わせて生きがいがあり、看護の専門性を発揮できる職場作りのための取組みを行ってまいります。

松尾芭蕉は「不易流行」という言葉を残しています。私たち看護部は、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中に、新しく変化を重ねているものをも取り入れていきたいと思っております。



島大病院ニュース  
2016年4月

# お知らせ

## 第9回 医療連携会議を開催しました

さいとう ようじ  
地域医療連携センター センター長 齊藤 洋司

当センターでは、平成19年から出雲圏域の7病院の院長及び連携部門の医療ソーシャルワーカー、看護師等との医療連携会議を開催しています。この会議は、各病院から患者ニーズに応じた医療機関相互の連携強化を目的としています。

昨年度は、平成28年3月8日(火)に開催しました。

昨年度からは、雲南・大田圏域の公立3病院、出雲市役所医療介護連携室からもご出席いただきました。

会議の冒頭で、高度外傷センターの概要や治療後の連携について説明がありました。その後、各病院から現在の病院機能とその運用状況について報告され、出雲市役所からは3,000人の市民を対象に実施された在宅医療等に関する意識調査の一部をご紹介いただきました。平成26、27年度の脳卒中地域連携パスの実績報告の後、地域医療の課題と方策と題し、意見交換がありました。予約システムに関すること及び当院からの転院時に他科の診療情報提供に関すること等のご意見を頂きました。

当院では、本会議でいただきましたご意見・ご要望に応えるべく、院内に周知・徹底するとともに、今後、各病院との連携が更に深まるよう努めてまいりたいと思います。

地域連携に関するお問合せ等ございましたら何なりとご連絡願います。

問合せ先 地域医療連携センター TEL : 0853-20-2193



平成28年4月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース  
2016年4月

# お知らせ

## 基幹型の認知症疾患医療センターとしてスタートしました

やまぐち しゅうへい  
認知症疾患医療センター センター長 山口 修平

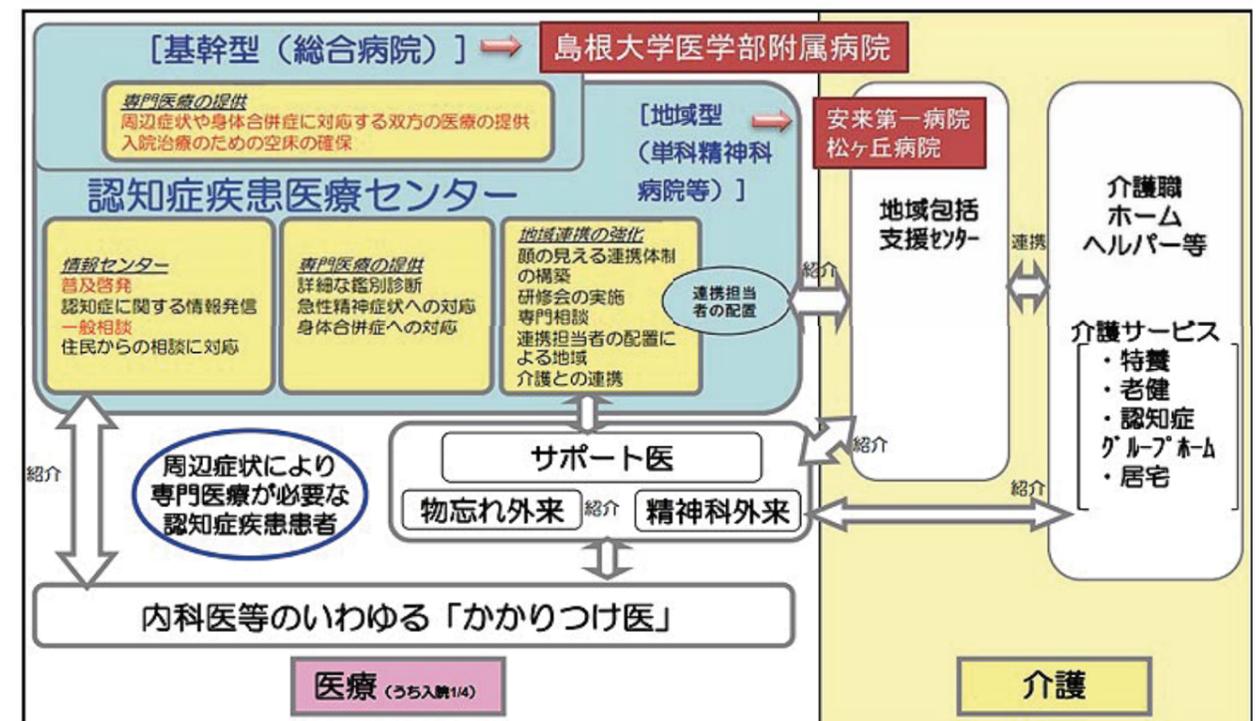
平成 23 年に島根県で最初の認知症疾患医療センター地域型としてスタートし、平成 27 年 8 月から基幹型の指定を受けました。益田および安来の地域型センターと連携し、認知症疾患に特化した診療を行っています。基幹型として、1) 物忘れ外来での認知症の確定診断、2) 認知症についての最新情報の提供や助言、3) 地域の保健、医療、介護等の関係機関との連携体制の推進などに加えて、4) 患者の BPSD (行動心理症状)・身体合併症に対応する医療の提供などを行っています。



認知症地域医療連携会議の様子

認知症疾患医療センターの物忘れ外来ではすべて予約診療としており、月・木曜日は神経内科、金曜日は精神科神経科が担当します。外来診療が主体ですが、緊急入院にも対応いたします。

多くの認知症は根本的治療が困難ですが、一方で認知症を早期診断し適切な治療を行う事で、ある程度進行抑制が期待出来ます。そのために薬物療法に加え、デイサービスや認知症カフェの利用を積極的に勧めています。当センターの看護師、作業療法士等が相談業務に対応しています。



問合せ先 認知症医療相談室 TEL:0853-20-2630 ホームページ <http://www.shimane-ninchi.jp/>



平成28年4月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース  
2016年4月

# お知らせ



## 最新鋭の心臓血管造影装置を導入しました

たなべ かずあき  
循環器内科 診療科長 田邊 一明

当院に救命救急センターが開設されて以来、急性冠症候群をはじめとする循環器救急症例が増加し続けておりますが、その診断・治療の核として2016年2月に最新鋭の心臓専用血管造影X線装置 (Philips: AlluraClarity) を導入しました。改善した透視画像の精細さは素晴らしく、更に被曝量も著しく低減しました。またバイプレーンシステムになったことにより二方向から同時に撮影が可能で、造影剤の使用量を半減することができます。これにより難易度の高い治療を行う際の制限になっていた被曝量・造影剤量を大幅に減らすことができ、更に治療成功率が高くなるものと期待されます。この最新の血管造影装置と山陰で唯一当院に導入されている次世代の心臓核医学システムである半導体検出器SPECT装置 (GEヘルスケア: Discovery NM 530c) および320列心臓CTを組み合わせることにより、更に低侵襲かつ高精度な循環器診療を目指していきたいと思います。

ホットライン TEL:070-5672-8109

問合せ先 循環器内科(医局) TEL:0853-20-2206

お知らせ  
島大病院ニュース

平成28年4月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース  
2016年4月

# お知らせ

## 不整脈に対するアブレーションについて

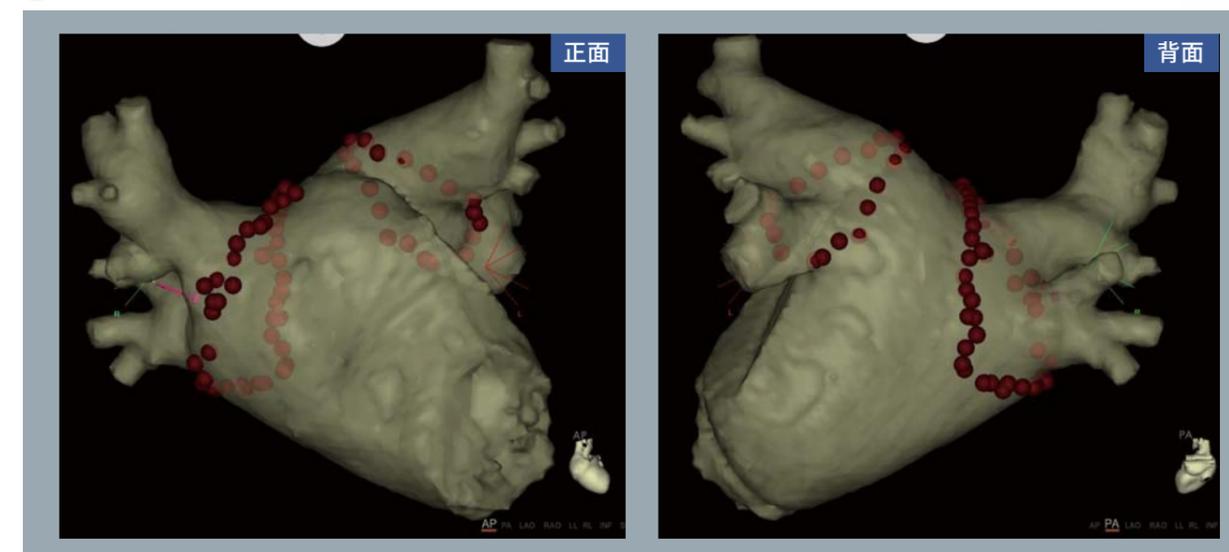
たなべ かずあき  
循環器内科 診療科長 田邊 一明

循環器疾患のうち、虚血性心疾患や弁膜症と並び頻度が高い疾患に不整脈があります。また、不整脈は他の疾患との合併も多く、循環器全般のマネジメントにおいて不整脈の適切な治療は非常に重要です。

一言で不整脈と言っても非常に多岐にわたり、個々の疾患や病態に応じて治療法を選択する必要があります。アブレーションは頻脈性不整脈の治療として広く普及しており、現在適応となる不整脈には、発作性上室性頻拍(房室結節回帰性頻拍やWPW症候群を含む房室回帰性頻拍など)、心房粗動、一部の心室性不整脈、心房細動などがあります。

当院では以前から発作性上室性頻拍や心房粗動に対するアブレーションを行っていましたが、昨年度より新たに3Dマッピングシステムを導入し、心房細動や心室頻拍など幅広く対応出来る体制を整えておりますので、不整脈でお困りの際はいつでもご紹介ください。また、今後とも当科の診療にご支援賜りますよう宜しくお願い致します。

● CARTO(3Dマッピング)を用いた心房細動アブレーション



ホットライン TEL:070-5672-8109

問合せ先 循環器内科(医局) TEL:0853-20-2206

お知らせ  
島大病院ニュース

平成28年4月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース  
2016年4月

# お知らせ

## 妊娠とお薬情報センター を開設しました

みなもと として  
産科婦人科 助教 皆本 敏子

近年、合併症妊娠が増加傾向にあります。ところが医薬品の妊婦・胎児への影響に関して、患者さんや医療者に必ずしも十分な情報があるとはいえません。当院では平成28年4月より妊娠とお薬情報センターを設置しました。相談に際しては、国立成育医療センターと連携し、海外とも連携することで蓄積されたデータ他、既存の文献を基礎情報として活用し、科学的に検証された医薬品情報を妊婦さんや妊娠希望患者さんに提供することで、妊娠中のお母さん・胎児・授乳期の新生児への影響をカウンセリングしていきます。

対象は、①加療中の疾患があり、挙児希望のある方、②加療中の疾患があり、妊娠中も内服が必要な方、③妊娠を知らずに内服をしたため、その影響が気になる方などです。妊娠前から主治医と情報を共有し、産褥期まで科学的な根拠を基に他診療科と妊娠をつなぐお手伝いをしていきます。

毎週木曜日に医師と薬剤師がカウンセリングを行います。他科加療中に妊娠された方、今後妊娠を考えているが薬の影響がわからず不安といった方をご紹介いただければ、すべての情報を主治医と共有することで日常診療のお役にたちたいと考えています。

### 妊娠と薬外来料金

- 1回(30分)につき 5,400円
- 以後30分毎につき 5,400円



問合せ先 産科婦人科(外来) TEL:0853-20-2389

お知らせ  
島大病院ニュース

平成28年4月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース  
2016年4月

# お知らせ

## 「好酸球性副鼻腔炎・中耳炎」外来を開設しました

かわうち ひでゆき  
耳鼻咽喉科学 診療科長 川内 秀之

好酸球性副鼻腔炎は、慢性副鼻腔炎のフェノタイプのひとつであり、通常の副鼻腔炎に対するマクロライド療法が奏効せず、内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っても再燃することが多いという臨床的特徴を有しています。本疾患を有する患者さんは、気管支喘息を合併していることが多く、早期から嗅覚の低下を自覚しています。鼻腔を観察するとムチン様の粘ちような鼻汁を認め、中鼻道や嗅裂付近に鼻茸を有しています(図1)。組織学的には、好酸球の浸潤や活性化が特徴的であり(図2)、薬物療法としてはステロイド薬の全身投与しか有効でないというのが現状であります。本疾患は難治性であるため、昨年厚生労働省の難病指定の疾患として取り扱われることになりました。耳症状を合併する症例では、滲出性中耳炎や鼓膜穿孔を伴う慢性中耳炎を認めるだけでなく、時には内耳波及による感音難聴を来す場合もあります。当科では、従来から慢性副鼻腔炎の病態の研究に携わってまいりましたが、本疾患の適切な鑑別診断や有効な治療(図3)を行うため、今年度より新たに水曜の午後に、好酸球性副鼻腔炎の特殊外来を新設しました。

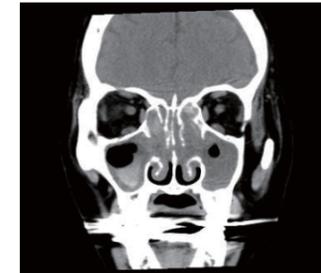


図1 好酸球性副鼻腔炎患者のCT画像

両側の篩骨洞を中心に陰影を認める。嗅覚低下が著明である。

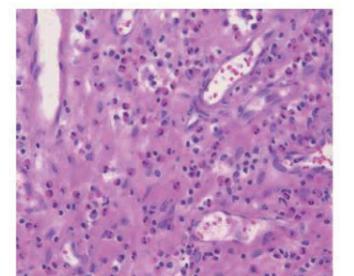
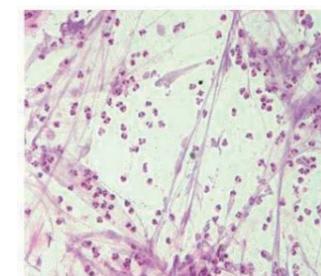
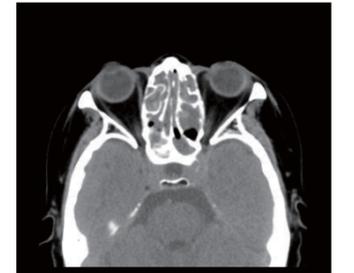


図2 好酸球性副鼻腔炎の臨床的特徴

- 1) 内視鏡下鼻副鼻腔手術/マクロライド療法に抵抗性(難治性)
- 2) 鼻茸の再発が多い
- 3) 副鼻腔組織中に好酸球浸潤が強い、ムチン様鼻汁を認める
- 4) 気管支喘息(アスピリン喘息を含む)を伴うことが多い

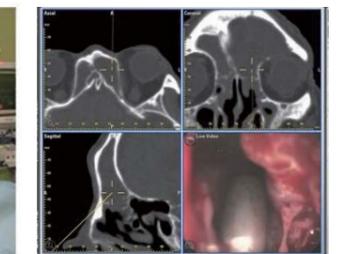


図3 ナビゲーションシステムを用いた鏡視下鼻副鼻腔手術(ESS)

術前撮影したCT上で、手術中にどこを手術しているのかが分かります。眼窩内合併症・頭蓋内合併症を生じることなく安全に手術することができます。

問合せ先 耳鼻咽喉科外来 TEL:0853-20-2390

お知らせ  
島大病院ニュース

平成28年4月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

